

知的財産報告書 2009年版



2009年 7月

井関農機株式会社

目 次

ごあいさつ	1
1. 研究開発の指針	2
2. 研究開発の方向性	2
3. 知的財産状況	4
4. 技術の市場優位性の分析	5
5. 研究開発および知的財産体制	7
6. 知的財産の取得・管理、秘密保持	8
7. 特許の活用	8
8. 知的財産ポートフォリオに対する方針	10
9. 知的財産関連の訴訟情報	10

知的財産報告書 2009年版 発行にあたって

井関グループは、「農業と農業機械」を経営の基軸とし、その開発、生産、販売を通して商品の機能・性能・品質・コスト・サービス競争力を強化し、商品の差別化や優位性の確保による市場競争力の向上に努めております。農業機械、農業関連商品等のコア技術の創造活動と、その活動で得られた知的成果である発明や創作等を戦略的な知的財産活動によって権利化と活用を図り、新たな創造に繋げる知的財産を重視した事業活動に取り組んでいます。

「知的財産報告書 2009年版」では、コア技術と研究開発の取り組み、特許資産管理、有効発明の発掘・権利化活動、商品デザインの取り組み、商標の取り組み、人材育成、秘密保持、権利の活用、グローバル化への対応、保有特許権や発明表彰、知的財産に関するリスク情報等についてご報告します。

[注意事項]

1. 本報告書は情報提供を目的としており、本報告書により何らかの行動を勧誘するものではありません。
2. 本報告書に記載されている当社の見通し、計画、方針、見込み、戦略、事実認識等、将来に関する記述をはじめとする分析は、当社が現在入手している予測、想定、計画等の情報に基づくものであります。
3. 予測を行なうには、すでに実現した事実以外に、一定の前提を使用しています。その前提については、客観的に正確である、あるいは将来実現するという保証はありません。その前提は、内外国の技術や需要動向、経済情勢、競合等の状況にかかわるものであり、前提が変化する結果、本報告書で述べられている、すでに実現した事実以外の事項は変更する可能性があります。
4. 本報告書に記載している特許公開件数、保有権利数等の知的財産データは、当社単独によるものであり関連会社を含んでいません。

ごあいさつ

当社は創業以来80余年にわたり農業機械の総合専門メーカーとして一貫してわが国農業の近代化を追求してまいりました。その過程のなかで数々の農業機械を他に先駆けて開発し、市場に供給しております。

世界人口の増加と食糧問題、また今日の食料自給率や国土保全の問題を考えると、農業機械メーカーの社会的使命はますます重要になってくると考えております。「需要家に喜ばれる製品の提供」を通して、わが国ならびに世界の農業に貢献することを経営の基本理念としてこれからも活動を続けてまいります。

井関グループは現在、稲作、野菜作等に関連する農業用機械の開発、製造、販売を主な事業の内容とし、その他の事業として疎植栽培などのように農家の皆様にとって有効な農業技術の提案を行うなど、ソフトの分野でも積極的な事業活動を展開しております。これらの事業活動について、お客さま、株主の皆様、投資家・アナリストの方々をはじめとするステークホルダーの皆様に対し、経営戦略や活動の成果などの企業情報の積極的かつタイムリーな開示に努めております。

従来より決算発表や有価証券報告書において、また会社説明会や新商品発表会などの機会を通じて研究開発活動と成果をご報告しておりますが、本書では、井関グループの研究開発の考え方、活動、成果としての知的財産の状況と活用等についてご報告いたします。井関グループの研究開発及び知的財産を重視した取り組みを皆様にご理解頂ければ幸甚に存じます。

特許行政年次報告書2009年版が公表され、当社は、特許査定率では2004年から5年連続第1位となり、分野別出願公開数では、2000年～2006年の農水産分野7年連続第1位に続き、農水産分野を含む新しい分野編成の「その他の特殊機械分野」で2007年も第1位となりました。

今後も「需要家に喜ばれる製品を提供する」ため、技術革新を進め、知的財産の取得に努めると共に、その有効活用を図り、魅力ある商品開発に取り組んでまいります。



2009年7月
代表取締役社長
浦生誠一郎

1 研究開発の指針

わたしたち井関グループは変貌する農業の中で、「農業機械を通じて社会に貢献する」という使命を抱き、技術者一人ひとりが「技術精神」に則って創造的な研究開発を行っています。蓄積した全ての技術を活用し、お客様の視点に立った顧客満足度の高い商品とサービスを提供することにより、農業に貢献してまいります。そして、これからもずっと農業とともに歩んでまいります。

農業機械を通じて社会に貢献

創造的研究開発

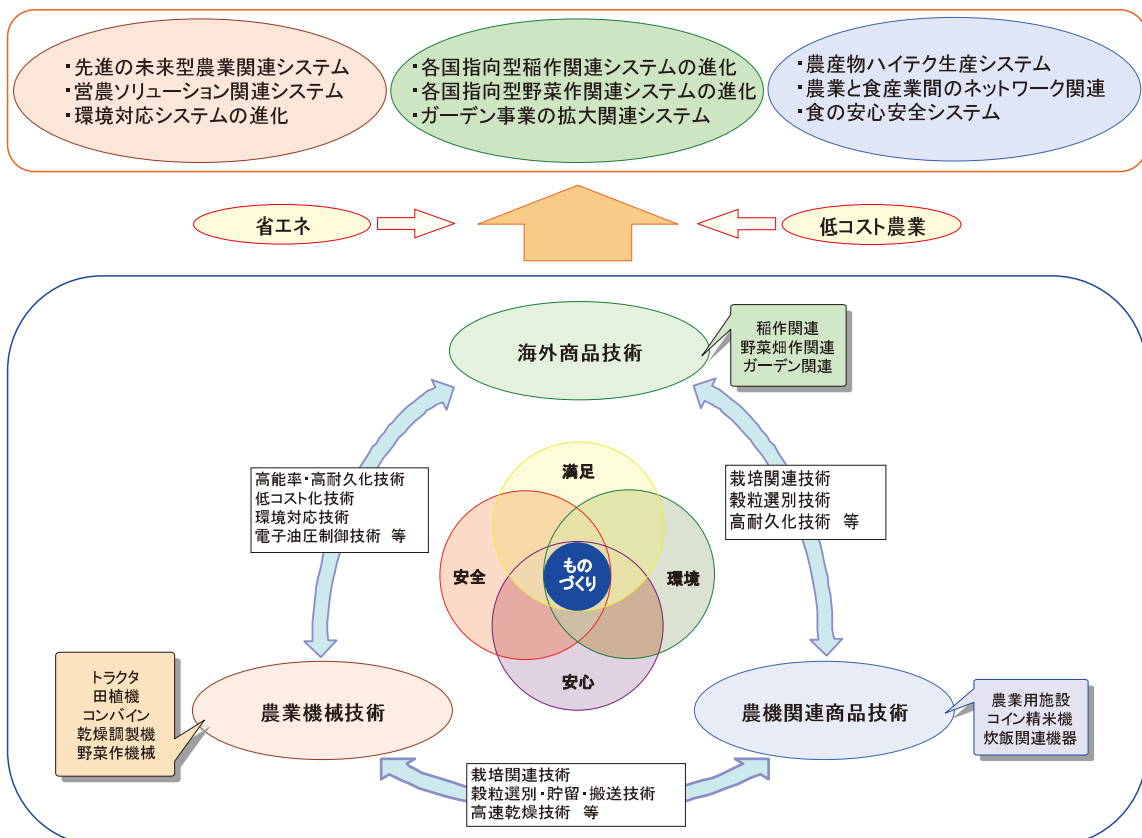
技術精神

- ・常に一步を先んじる
- ・商品理念に徹する
- ・技術総力を発揮する
- ・アイデアを売り込む

研究開発投資については、中長期的展望に立って需要と市場動向を予測し、計画的な投資を行っています。なお、2008年連結会計年度の研究開発費は約41億円であります。

2 研究開発の方向性

農業機械技術、農機関連商品技術、海外商品技術の全ての領域において、「満足」、「安全」、「安心」、「環境」の4つのキーワードを「ものづくりの原点」とし、3つの領域にそれぞれ方向性を定め、研究開発を推進しています。特に、「低コスト農業」「省エネ」に重点を置いた研究開発により「豊かで持続発展可能な社会」の実現を目指します。



農業機械技術

トラクタ 変速・操作性に勝る人に優しい新変速技術、高速通信を中心とした複合制御技術、水田・畑作管理作業に優れた走行性向上技術や作業精度向上技術、担い手農家への経営支援技術、エンジン制御等による省エネ・環境対応技術の研究開発に取り組んでいます。

田植機 自律直進制御技術、作業負荷を軽減する省力化制御技術、大規模担い手向けの高速植付技術、エンジン制御等による省エネ・環境対応技術、低コスト農業支援技術、省力高精度直播技術の研究開発に取り組んでいます。

コンバイン 機体の軽量化による省エネ技術、排気ガスのクリーン化による環境保全技術、作業の高能率化による低コスト農業支援技術、脱穀装置の穀粒回収率向上技術、ユニバーサルデザインを追求した操作性向上技術の研究開発に取り組んでいます。

乾燥調製機 高品質・高能率化・コンパクト化を追求した籾摺選別技術、高速乾燥技術、乾燥エネルギーの効率的利用技術、低騒音・低振動を追求した作業環境改善技術などの研究開発に取り組んでいます。

野菜作機械 水稻技術で培ったノウハウを活用して、育苗・土作り・移植・栽培管理・収穫・調製の野菜作一貫体系を進め、低コスト・省力化技術、環境対応、地産地消支援及び新たな作物への研究開発に取り組んでいます。

耕うん機・管理機 環境に優しく、かつ取り扱いやすさを追求した製品の研究開発に取り組んでいます。

エンジン 農業機械特有の作業性能を最大限に発揮するエンジン制御、ゼロエミッションと低燃費の両立を目指した研究開発に取り組んでいます。

農機関連商品技術

高品質・高収量を目指した農産物ハイテク生産システムの環境型植物工場、農業施設用情報化技術、バイオマス関連技術、食の安心安全を配慮した環境関連技術、高品質・高速処理を追求する無洗米関連技術、豊かな作業環境を実現する高機能型炊飯関連技術の研究開発に取り組んでいます。

海外商品技術

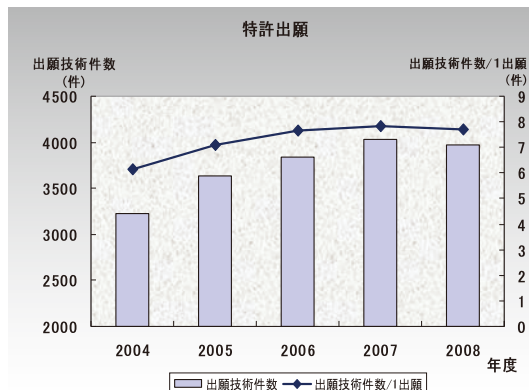
欧州・北米向けには電子油圧制御技術による操作性向上等の高機能化および各国に最適な仕様を追求した低コスト型トラクタや芝草条件の適応性を向上したガーデン機械、中国向けには現地特有の作物条件や圃場条件に対する適応性を向上させて作業の能率向上と省力化を図り、油圧系や作業部等の高耐久化やメカ制御技術等による低コスト化を追求したコンバイン・田植機・野菜作機械、韓国・台湾向けには高速作業技術・高精度作業技術等の高能率化・高機能化を追求したトラクタ・コンバイン・田植機、東南アジア向けには現地条件の適応性を追求した高耐久・低コスト型のトラクタ・田植機の研究開発に取り組んでいます。

3 知的財産状況

発明の創出・特許戦略

当社は、コア技術を中心とした技術テーマ毎に創造性手法を用いた独自の発明提案活動を推進し、発明の「質」の向上と「量」の拡大を図っております。

技術者は発明・創作に対する強いこだわりと旺盛な意欲を持っており、近い将来実用化する技術に関する発明が活発に創出されています。提案された発明は社内規程と審査基準に基づく厳しい選別を受け、当社独自の特許出願効率化策を用いて積極的に出願し、特許網の構築を進めています。



意匠・商標戦略

魅力あるデザインと親しみやすいペットネームはそれぞれ意匠権、商標権として蓄積し、他社商品と差別化・識別化し、デザインの保護強化及び当社ブランド価値の向上を図っています。

商品デザインの考え方

- デザインの基本 ・使用環境にマッチした魅力ある商品 ・長く使って、より愛着を感じて頂ける商品
- デザインの進め方 ・現場の確認、市場の声 ・デザイン動向の分析とコンセプトの構築
- デザインの展開 ・井関らしさの継承(商品特性、商品カラー) ・時代性を感じさせる新しい魅力の創造
- デザインの方向性 ・魅力を感じ、使ってより満足して頂けるデザイン ・農業機械の未来を先取りしたデザイン

商標の取り組み

- ペットネームの考え方
 - ・農家にとって農業機械は共に仕事をするパートナー
 - ・土を作り、苗を植え、管理し、収穫から出荷までの日々の作業で、親しみと愛着あふれる農業機械
- 当社の代表的な登録商標
 - ・田植機の代名詞ともなった「さなえ」 ・世界にも類のない自脱型コンバインの火付け役となった「FRONTIER」
 - ・代表的トラクタの「ジース」 ・管理機の「バンジー」 ・乾燥機の「ドライボーイ」 ・籾すり機の「スーパーメイト」
 - ・計量選別機の「ポリメイト」 ・野菜移植機の「ナウエル」 ……など
- 時代に先駆けた戦略
 - ・農業構造の二極化、低コスト農業・省エネに対応する販売戦略に連動したペットネームの設定

海外知的財産戦略

海外においては、米国、欧州、アジア地域をターゲットとした事業戦略に整合する厳選した発明・意匠・商標の知的財産の出願を着実に進めています。特に、中国等のアジア諸国、米国を重視した知的財産権の取得を進めています。

4 技術の市場優位性の分析

農業機械技術

トラクタ 大規模担い手向けトラクタTJWシリーズに、コモンレール式燃料噴射システムを採用した高馬力エンジンを搭載しました。高馬力で安定した作業性を実現し、低騒音・低振動でキャビン内を静音化し作業の快適性を向上します。また、電子ガバナを採用し、エンジン回転数、燃料噴射量、噴射タイミングを総合的に制御し、好評の「アクセル変速」など本機の制御にも積極的に応用して高精度な作業に貢献しています。更に、「手動モード付オートデフロック機能」、「オートアクセル」、「アクセルメモリー」など高精度作業に欠かせぬ先進の制御機能を装備しています。

アクセル変速 電子ガバナがエンジン回転数を自動で最適に調整するため、変速ショックの少ないスムーズな加速が行え、プラウなどの牽引作業や路上走行を快適に行えます。

手動モード付オートデフロック機能 旋回のため作業機を上昇させると自動的に「切」になり、プラウなどけん引作業時に大変便利です。また手動モードは悪条件下での脱出に有効です。

ATシフトで好評のトラクタATシリーズに、角速度センサーとスロープセンサーのダブルセンサー方式による「作業機水平制御」を装備しました。また燃料給油時のこぼれ防止警報装置を装備し燃料補給作業を容易化しました。

作業機水平制御 機体の傾斜を正確に検出するスロープセンサーと機体の傾きを素早く検出する角速度センサーにより、応答性よく水平制御でき、特に代掻き時の仕上りを綺麗にします。

トラクタ用作業機では成畦と同時に部分的に施肥を行う「うね内部分施用機(エコうねまぜ君)」を開発しました。作物に効果のある部分のみに散布するため、肥料・農薬を削減でき、低コスト農業に貢献します。残留肥料、農薬の軽減で環境にも優しい作業機です。

田植機 「乗用田植機PZシリーズ」と「乗用田植機PQZシリーズ」に引き続き廉価小型の「乗用田植機PPZ4」を開発しました。このクラス業界初の「ミッド施肥」・「さなえロータ」・「疎植」と乗用田植機PQZシリーズで好評の「さなえQターン」・「後輪独立スイング」・「オートアクセル」を備え、小規模農家の皆様にも省力化と快適作業を提供し、市場で好評を博しています。

ミッド施肥 廉価小型4条植えクラス業界初のミッド施肥機を装備し、エンジンで暖められた空気をブロアーが吸引し、温風で肥料を搬送し(温風搬送方式)、肥料詰まりを防止します。

さなえロータ 廉価小型4条植えクラス業界初の整地ロータを装備し、枕地の旋回跡を綺麗に整地するので、枕地の植付けが美しく仕上がります。

疎植 クランク式植付装置で疎植田植(37株/坪)ができ、省力・低コスト化が図れます。

また、乗用田植機PZシリーズで好評を博している先進のZ機能を備えた「多目的田植機PZV80」を開発しました。直播部・植付部・除草部・溝切部の各作業部を簡単に着脱できるクイックヒッチを装備し、直播部は1台で条播と点播が行え、植付部は疎植田植(37株/坪)が行え、省力化及び低コスト農業に貢献できると確信しております。

コンバイン 大豆・そば・麦の収穫を1台でこなす小型軸流型コンバインHC380を開発しました。「新型操作席」、「ストレートグレンタンク」、「刈高定点制御」を備え担い手農家の期待に応えます。

新型操作席 自脱型で好評の「パノラマコックピット」を継承し、多機能パワステレバーと主変速レバーとにリール調節スイッチを装備し、軸流型コンバインの操作性を一層高めています。

ストレートグレンタンク 穀粒貯留容量を950リットルへ拡大し、当社独自の空気搬送式排出装置「エアーグレン」との組み合わせにより、損傷・汚粒の少ない収穫作業を能率よく行えます。

刈高定点制御 接地センサを使用できない麦・そばの収穫時に、刈取部を設定した高刈り作業位置に維持します。刈取部を手動で昇降操作した後も、設定した高刈り作業位置にワンタッチで自動復帰させることができ、刈取作業の能率が高まります。

また、好評を博しているHFGシリーズに、新たにプロ仕様のHFG4・5条コンバインが加わりました。「パノラマコックピット」に加え、操作性の高い「手元操作式ナローガイド」を搭載しています。

パノラマコックピット オペレータの正面に配置したメーター類及び大画面マルチアイ、この左側に集中配置した自動制御スイッチ、各種操作スイッチを備えた多機能パワステレバー、有線式オーガ操作リモコンをレイアウトし、作業姿勢を崩すことなく、安定した作業が楽に行えます。

リモコンナローガイド 未刈穀稈分離用のナローガイドを、降車することなく操作席から開閉操作でき、刈取作業の能率が向上します。

野菜作機械 野菜移植機では、連続回転式苗供給部で苗供給が楽に行える高速仕様の歩行型半自動野菜移植機「PVH1」を開発し、使いやすさを向上すると共に、高能率作業を実現しています。また、野菜収穫機では、作業姿勢を水平に保つ傾斜調節機構と、茎葉を短く切断する切断装置を備えた歩行型生姜引拔機「VHG」を開発し、引拔精度の向上と、後工程での茎葉の鋤き込み作業の能率向上を達成しています。更に、各地域特産物に対応した野菜作機械の研究・開発を行い、移植から調製までの野菜作一貫体系の研究開発に取り組んでいます。

農機関連商品技術

農業用施設 石油を燃料とする石油ボイラーと木質ペレットを燃料とする木質ボイラーを備え、ランニングコストの低減を図ると共に、資源の有効利用を図るハイブリッド暖房栽培施設を開発しました。また、「農作物ハイテク生産システム」を愛媛大学と共同研究し、高糖度トマト栽培技術の確立や「自走式植物生育診断装置を含む知的植物工場システム」の研究が進んでいます。

海外商品技術

欧州・北米 欧州向けにリヤディスチャージリヤコレクト方式により集草性を向上した小型でコンパクトな乗用モータースXG15、走行系操舵系に電子制御を織り込んだ多目的トラクタICTを開発しました。また、北米向けには走行操作性に優れた変速操作技術や低騒音キャビンを装備したトラクタを開発しました。更に、各国の安全基準に対応するトラクタ・モータを開発しました。

中国 狭い畦道を走行できる1輪2条植えの歩行田植機PS15を市場に投入しました。また、中国の農業情勢に合わせた田植機を開発しています。また、先行投入した高馬力・高能率・高耐久のコンバインHF608の技術を継承しながら、より低価格化を実現してシェア拡大を狙うHF558を開発しました。

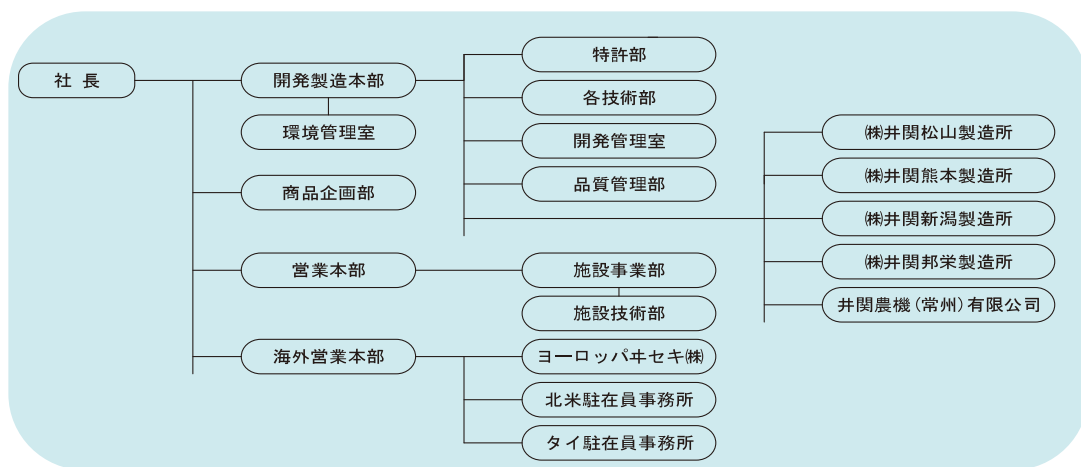
台湾 高馬力・低騒音のエンジンを搭載し、伝動系など現地向け専用に耐久性を向上させたトラクタTJWを開発しました。また、高能率・高耐久の大型田植機・コンバインを開発しています。

韓国 高馬力・低騒音のエンジンを搭載し、操作性を向上したトラクタTJWを開発しました。また、先進の「Z機能」を備え、耐久性を向上させた「新型植込杆」を装備し高耐久・高能率の田植機PZ80を開発しました。また、高能率・高耐久・高機能の大型コンバインを開発しています。

東南アジア 現地向け専用ミッションを搭載したトラクタを開発しています。また、低価格で現地特有の作業条件・圃場条件に適応させた田植機を開発しています。

5 研究開発および知的財産体制

組織図



研究開発体制

商品開発・技術開発担当

井関グループは、稲作、野菜作等に関連する農業用機械の開発、製造、販売を主な事業の内容とし、井関グループが展開している事業に関する研究開発は、主に当社で行っております。

海外商品開発ネットワーク

当社と欧州、米国、中国、東南アジア地域との開発ネットワークにより、グローバルな技術開発の推進体制を構築し、技術関連情報の収集と海外商品に対する研究開発速度のスピードアップを図っています。



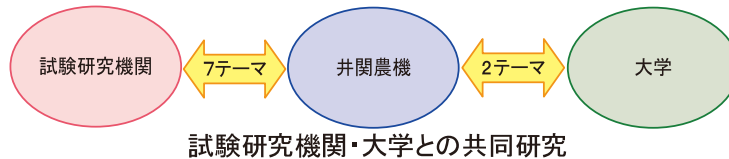
知的財産体制

管理体制 特許部は、開発製造本部に所属し、当社及び関連会社を含む井関グループ全体の知的財産の管理・指導・教育を行なう一元管理体制をとっております。

人材育成 井関グループ方針として「井関グループ総合力の発揮」を掲げ、その根幹である人材育成に注力しています。特許部員、技術者、新入社員、製造会社、販売会社に対する知的財産・創造性教育を通じ井関グループ全体の創造性の活性化と技術総力の向上に努めています。

産学官連携

当社は、コア技術について、独自開発を原則としていますが、コア技術の一部やコア技術に関連する領域については大学や試験研究機関等と共同して研究開発を進め、研究開発の迅速化と効率化を図っています。



6 知的財産の取得・管理、秘密保持

発明考案、権利の取得・管理、企業秘密情報等についての取扱いを、就業規則、職務発明取扱規程、商標取扱規程、井関グループ倫理行動規範、特許業務マニュアル等に定めています。故意若しくは重大な過失により違反した場合には罰則の対象になり、コンプライアンスの徹底を図っています。

発明者に対しては、就業規則、職務発明取扱規程、補償金支給評価基準等の運用による発明承継対価、実施補償、社内外の表彰等によって発明創作へのインセンティブを与えています。

また、発明の創作時から権利の放棄に至るまで多くの規程・基準により知的財産を厳格に管理しています。例えば、特許権の価値評価については、1995年4月に実施権利の価値を金額算定する「特許権の価値算定基準」を設け、社会通念に適合するように逐次見直ししながら自社の特許資産管理や権利交渉等に活用しています。

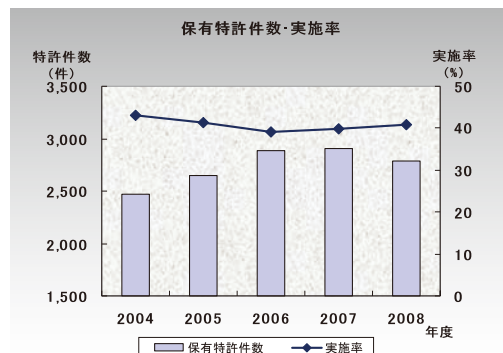
7 特許の活用

コア技術及びこれに関連する領域にある特許権については、自社製品の優位性の確保やクロスライセンスによる商品開発の円滑化により事業を成功させることに重点を置いています。この領域外の権利については、将来の実効性を考慮したうえで、ライセンス等による活用を図るなど、企業にとって最適な手段を採用しています。

特許保有状況

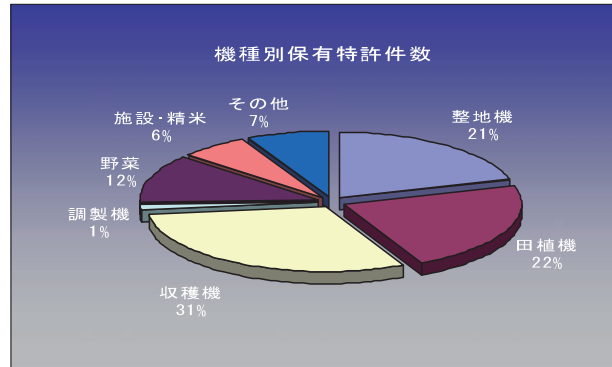
国内

社内規程及び審査基準に基づいて厳選した発明を積極的に特許出願し、有効権利の取得と蓄積に努めています。2008年度は約2,790件となっています。



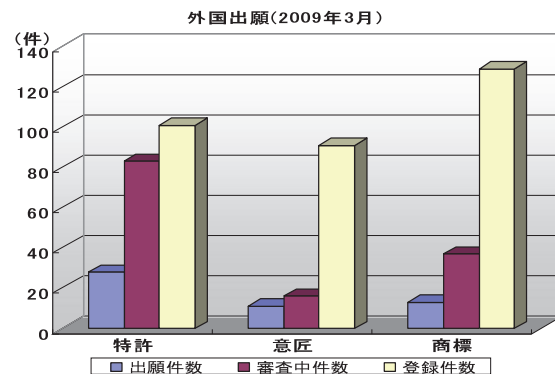
2009年3月末時点における主要3製品（整地機、田植機、収穫機）および野菜作機械の保有特許件数は、当社全体の保有特許件数の86%を占めております。

事業戦略を重視した“強くて良い”特許網の構築を目指した知的財産戦略を実行してまいります。



海外

欧州、米国、中国等のアジア諸国に厳選した知的財産の出願を行っています。保有権利数は、毎年増加しています。また、アジア地域に対しては、積極的に意匠、商標出願し、模倣排除に注力しています。



特許査定率、特許出願関係

特許査定率では、5年連続で全産業中第1位です。

年	2004	2005	2006	2007	2008
特許査定率	84.6%	83.7%	90.4%	89.3%	85.8%
順位	1位	1位	1位	1位	1位

特許査定率＝特許査定件数／(特許査定件数＋拒絶査定件数＋取下・放棄件数)

* 取下・放棄件数＝拒絶理由通知の後に取り下げまたは放棄した件数

また、日本における分野別公開数統計表において、2000～2006年の「農水産分野」で7年連続第1位に続き、分野編成が変更された2007年は「その他の特殊機械分野」で第1位です。

年	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
分野	農水産	農水産	農水産	農水産	農水産	農水産	農水産	※その他の特殊機械
順位	1位	1位	1位	1位	1位	1位	1位	1位

※2009年版から分野編成が変更され、農水産分野は、「その他の特殊機械分野」に含まれます。

(特許行政年次報告書2002年版～2009年版)

受賞の歴史

農業用機械技術の開発、育成、実用化による貢献に関連して国家勲章、国家褒章、科学技術功労者表彰、発明表彰、文部科学大臣表彰、農業機械学会表彰等を受賞する多くの技術者を輩出しています。

1952年には、創業者の井関邦三郎が(社)発明協会の全国発明表彰を受賞し、1993年には、当社が日本で始めて実用化に成功した自脱コンバインの開発と普及の功績として「農業試験研究一世紀記念会会長賞」(農水省、農業試験研究一世紀記念会共催)を受賞しました。

2008年には、当社の伝統である知的財産重視の経営が評価され、『知財功労賞』(産業財産権制度活用優良企業等表彰 特許庁長官表彰)を受賞しました。

(社)発明協会の表彰は毎年受賞しており、現在、全国発明表彰18件を含む181件の発明表彰を受賞しております。創業者の研究開発に対するフロンティアスピリットを脈々と受け継ぎ、知的創造活動による実用的な新技術の創出が当社の伝統になっています。

受賞関係

○(社)発明協会 平成20年度四国地方発明表彰

文部科学大臣発明奨励賞1件

特許第3891171号 動力車両の変速制御装置

発明奨励賞2件

特許第3769981号 コンバインのアクセル制御装置

特許第2508841号 乗用型田植機

発明表彰受賞件数 181件(2009年3月末現在)

受賞内容

○全国発明表彰 18件

特別賞	発明協会会長賞 1件
	朝日新聞社賞 1件
特賞	2件
発明賞	14件

○地方発明表彰 163件

特別賞	文部科学大臣発明奨励賞(前科学技術庁長官発明奨励賞)	9件
	特許庁長官奨励賞	5件
	経済産業局長賞(四国通商産業局長賞)	7件
	発明協会会長奨励賞	7件
	日本弁理士会会長奨励賞	4件
	合計	32件
支部長賞		9件
優秀賞他		37件
発明奨励賞		85件

8 知的財産ポートフォリオに対する方針

技術動向

競合他社の技術動向を分析し、自社のコア技術の位置付けを明確化し、技術・企画を含めた全社の共有情報として事業戦略・研究開発戦略の構築資源としています。

技術テーマの設定

コア技術、コア技術に関連する有望技術、市場動向等から開発・営業を含む全社の総意に基づいて技術テーマを設定し、明確な目標を持って特許網を構築し、商品開発のプライオリティの確保を進めています。また、自社に蓄積されたコア技術を、井関式パテントポートフォリオIPPMにて他社技術に対する強みを解析・評価し、研究開発戦略に寄与しています。

海外知的財産の構築

各国別の市場動向や知財状況を分析し、開発・海外担当部門と連携してグローバルな事業活動の展開に伴った知的財産戦略を定めています。また、知的財産状況と競合他社の技術動向等から自社技術の実効性を評価するために、当社独自の外国特許情報検索システムを活用しています。そして、各国毎に有望技術を出願し、有効権利の取得と蓄積に努めています。

9 知的財産関連の訴訟情報

国内外ともに経営に影響を与える知的財産権訴訟の継続中の案件はありません。事業、研究開発の推進にあたって、細心の注意をはらい、知的財産戦略を着実に実行いたします。

会社概要

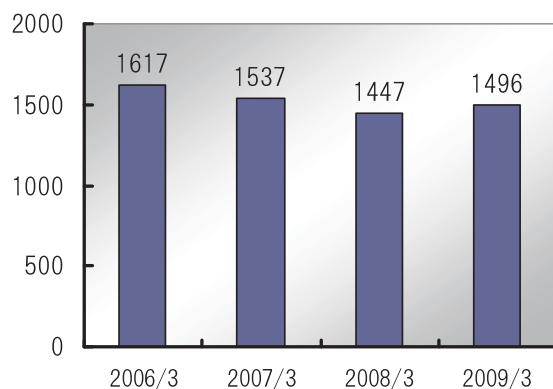
社 名	井関農機株式会社 (ISEKI & CO., LTD.)
本 社	愛媛県松山市馬木町700番地
本社事務所	東京都荒川区西日暮里5丁目3番14号
創 業	大正15年(1926年)8月
資本金	227億84百万円 (2009年3月31日現在)
従業員	連結:6,514名 (2009年3月31日現在)
事業内容	当社はつぎの製品の製造および販売を主要な事業内容としております 整地用機械・・・トラクタ、耕うん機、管理機、芝刈り機 栽培用機械・・・田植機、野菜移植機 収穫用機械・・・コンバイン、バインダ、ハーベスタ、野菜収穫機 調製用機械・・・籾すり機、乾燥機、精米機、計量選別機、野菜調製機 その他・・・・・・作業機、補修用部品、農業用施設

開発製造に関する関連会社

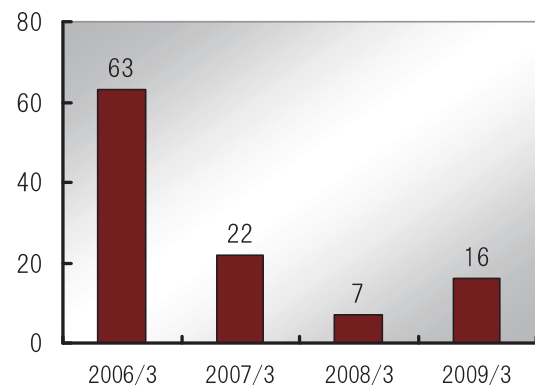
(株)井関松山製造所	井関農機(常州)有限公司
(株)井関熊本製造所	松山ファクトリーサービス(株)
(株)井関新潟製造所	(株)井関植木製作所
(株)井関邦栄製造所	

業績推移

■売上高(億円)



■営業利益(億円)





報告書に関するお問合せ先

井関農機株式会社 開発製造本部 特許部
〒791-2193 愛媛県伊予郡砥部町八倉1番地
Tel. (089)956-9810 Fax. (089)956-9818
URL: <http://www.iseki.co.jp/>
E-mail: pat-matsuyama@iseki.co.jp